TADOKU JUNIOR 自然のふしぎ神話 ★★★☆☆ ふつう 850語

Prometheus

プロメテウス

Flora J. Cooke（1895年の本） 原文そのまま 朗読：Linette Geisel

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ ねん土から人間を作ったプロメテウスは、ちえのない人間たちを助けようと、ゼウスの大切な火をとってきます。

Greece is far away to the east over a great ocean. It is a very small country with high mountains in every part of it.

The people who lived there long ago could not easily go from one place to another.

Some of the mountains reached above the clouds and made great walls around their homes. Men sometimes lived all their lives near the sea and never saw it.

These people who were shut up in the little valley of Greece did many wonderful things.

As they could not go far from their homes they had time to see how beautiful the things around them were.

Perhaps they looked at the sky so much that they wished to have everything on earth just as beautiful.

They gave their children work to do which made them strong and graceful.

Some of the Greeks carved statues from the marble in the mountains. Some built great temples of it.

Some painted pictures, while others made gardens more beautiful than pictures.

Others wrote books. Many of the stories you like were written by the poets who lived in Greece long ago.

In all these ways the Greeks showed their love for their country and made it a better place in which to live.

Though they were so wise they had many thoughts which seem strange to us.

They believed that long before they were born a race of giants had lived among the mountains.

At one time the giants grew angry with Zeus, their king, and wished to take his throne away from him.

There was a wise giant, named Prometheus, who begged them not to attempt to do this.

He tried to show them how foolish they were.

They would not listen to him. Zeus lived upon Mount Olympus, the highest mountain in Greece.

The giants brought great rocks to this mountain and piled them up, higher and higher, until they reached the sky.

Zeus waited until the giants had finished their work and were ready for battle.

Then he put out his hand and touched the great mound. Instantly it fell over into the sea.

Prometheus and his brother were now the only people on earth.

They were so lonely that Zeus told them to model some people from clay.

Prometheus made animals and men and Epimetheus, his brother, gave them gifts of courage, swiftness and strength.

To some he gave feathers and wings, to others fur and claws, and to others a hard shelly covering.

When he came to man he had no covering left.

Zeus said, “I will clothe man,” and that is the reason his covering is so delicate and beautiful.

Prometheus’ people could not breathe.

Zeus sent him to Æolus, the god of the winds, for help.

Æolus sent his strong son, North Wind, back with Prometheus.

When North Wind saw the people of clay he whistled with surprise.

He blew his breath upon them.

They turned as white as snow and began to breathe.

They were a cold people, however, and Prometheus did not love them.

He went to Æolus again and this time South Wind and the zephyrs came with him.

South Wind brought the people green grass and flowers and birds.

The zephyrs showed them how to laugh and cry and sing and dance.

But the people were stupid.

They lived like ants in dark caves.

Prometheus saw that there was only one thing which would help them.

That was fire.

Fire was the most precious thing Zeus had, and he kept it ever burning around his throne.

When Prometheus asked for fire Zeus was angry.

“I have already given too much to your people,” he said. “Let them now help themselves.”

Prometheus was sad, indeed.

He loved his people more than he did himself.

At last he said: “They shall have the fire. I will pay for it with my life.”

He went straight to Zeus’ throne and filled a ferule with it, and carried it to his people.

Then the people began to be wise.

He taught them to cook, and to build houses, and to sail their ships upon the ocean.

He showed them how to get rich ores from the mountains and prepare them for use.

They learned how to plow and to reap and to store up their food for the winter.

Zeus was angry with Prometheus.

He chained him to a rock on the top of a high mountain.

He sent a great bird each day to torment him.

Zeus said that he must stay there until he repented and returned the fire to heaven.

There Prometheus stayed and suffered for many burning summers and long, cold winters.

Sometimes he grew faint-hearted and wished to be free.

Then he looked down and saw how the fire was helping the people and how happy they were, and he grew strong again.

After many, many years, a Greek hero who was sailing over the mountain in a golden cup, saw Prometheus.

It was Hercules. He shot the bird with a golden arrow, unbound the chains and set the wise Prometheus free.



和訳 プロメテウス（Prometheus）

ギリシャは、大きな海をこえた、ずっと東にあります。ギリシャはとても小さな国で、どこにも高い山があります。

むかしそこにすんでいた人々は、ある場所からべつの場所へ、かんたんには行けませんでした。

山の中には雲より高いものもあって、人々の家のまわりに大きなかべを作っていました。海の近くでくらしていながら、一生、海を見たことのない人もいました。

ギリシャの小さな谷にとじこめられていたこの人々は、たくさんのすばらしいことをしました。

家から遠くへ行けなかったので、まわりのものがどんなに美しいかを見る時間があったのです。

もしかすると、空をあまりにたくさん見ていたので、地上のものも何もかも、同じくらい美しくしたいと思ったのかもしれません。

人々は子どもたちに、体が強く、すがたが美しくなるような仕事をさせました。

山の大理石で、ちょうこくをほったギリシャ人もいました。大理石で大きな神でんをたてた人もいました。

絵をかいた人もいれば、絵よりも美しい庭を作った人もいました。

本を書いた人もいました。みなさんのすきなお話の多くは、むかしギリシャにすんでいた詩人が書いたものです。

こうしたいろいろなやり方で、ギリシャの人々は自分の国へのあいをあらわし、国をもっとすみよい場所にしたのです。

人々はとてもかしこかったけれど、わたしたちにはふしぎに思える考えもたくさん持っていました。

自分たちが生まれるずっと前に、きょじんの一族が山の間にすんでいたとしんじていたのです。

あるとき、きょじんたちは王のゼウスにはらを立てて、王ざをうばいとろうとしました。

プロメテウスというかしこいきょじんがいて、そんなことはしないでくれと、みんなにたのみました。

プロメテウスは、それがどんなにおろかなことか、みんなにわからせようとしました。

きょじんたちは聞こうとしませんでした。ゼウスは、ギリシャでいちばん高い山、オリンポス山の上にすんでいました。

きょじんたちはこの山に大きな岩を運んできて、空にとどくまで、高く高くつみ上げました。

ゼウスは、きょじんたちが仕事をおえて、たたかうしたくができるまで待ちました。

それから手をのばして、その大きな岩の山にさわりました。たちまち、岩の山は海へたおれてしまいました。

地上にいるのは、プロメテウスとその弟だけになりました。

ふたりがとてもさびしかったので、ゼウスは、ねん土で人間を作りなさいと言いました。

プロメテウスが動物と人間を作り、弟のエピメテウスが、それにゆうきや速さや強さのおくりものをあたえました。

あるものには羽とつばさを、あるものには毛皮とつめを、またあるものにはかたいからをあたえました。

人間のばんになったとき、おおうものはもう何ものこっていませんでした。

ゼウスは「わたしが人間に服を着せよう」と言いました。人間の体をおおうはだがとてもやわらかく美しいのは、そのためです。

プロメテウスの人間たちは、息をすることができませんでした。

ゼウスはプロメテウスを、風の神アイオロスのところへ助けをもとめに行かせました。

アイオロスは、力の強いむすこの北風を、プロメテウスといっしょに送りました。

北風はねん土の人間を見ると、おどろいてヒューッと口ぶえをふきました。

北風が人間たちに息をふきかけました。

人間たちは雪のようにまっ白になり、息をしはじめました。

けれども、つめたい人間たちだったので、プロメテウスはすきになれませんでした。

プロメテウスはもう一度アイオロスのところへ行きました。こんどは南風とそよ風たちがついてきました。

南風は、人間たちに緑の草や花や鳥をもってきました。

そよ風たちは、わらうことやなくこと、歌うことやおどることを教えました。

けれども、人間たちはちえがありませんでした。

アリのように、くらいほらあなでくらしていました。

人間たちを助けられるものは、たった一つしかないと、プロメテウスにはわかりました。

それは火でした。

火はゼウスのいちばん大切なもので、ゼウスはそれを王ざのまわりで、いつももやしていました。

プロメテウスが火をくださいとたのむと、ゼウスはおこりました。

「おまえの人間たちには、もうたくさんあたえすぎた」とゼウスは言いました。「これからは自分たちで何とかさせなさい。」

プロメテウスは、本当に悲しくなりました。

プロメテウスは、自分よりも人間たちのほうをあいしていたのです。

とうとうプロメテウスは言いました。「人間たちに火をあげよう。そのためには、わたしの命をさし出してもかまわない。」

プロメテウスはまっすぐゼウスの王ざへ行き、くきのつつに火をつめて、人間たちのところへ運びました。

それから、人間たちはかしこくなりはじめました。

プロメテウスは人間に、りょうりをすることや家をたてること、海に船を走らせることを教えました。

山から役に立つこうせきをほり出して、使えるようにするやり方も見せました。

人間たちは、畑をたがやし、とり入れをして、冬にそなえて食べ物をたくわえることをおぼえました。

ゼウスは、プロメテウスにおこりました。

ゼウスは、プロメテウスを高い山のてっぺんの岩にくさりでつなぎました。

そして毎日大きな鳥を送って、プロメテウスを苦しめました。

ゼウスは、プロメテウスが心を入れかえて、火を天へかえすまで、そこにいなければならないと言いました。

プロメテウスはそこで、何回ものやけつくような夏と、長くつめたい冬のあいだ、苦しみつづけました。

ときどきプロメテウスは心が弱くなって、自由になりたいと思いました。

そんなときは下を見て、火がどんなに人間たちの役に立ち、人間たちがどんなにしあわせかを見ると、また強い心をとりもどしました。

何年も何年もたって、金のさかずきに乗って山の上をわたっていたギリシャのえいゆうが、プロメテウスを見つけました。

それはヘラクレスでした。ヘラクレスは金の矢で鳥をうちおとし、くさりをといて、かしこいプロメテウスを自由にしてあげました。

たんご と クイズ プロメテウス

mountains 山	**statues** ちょうこく	**clay** ねん土
feathers 羽	**North Wind** 北風	**ants** アリ
fire 火	**chained** くさりでつないだ	

Q1 人間の体を、ゼウスがおおってあげたのはなぜ？

① 人間が寒がったから　② 人間にあたえるおおいがのこっていなかったから　③ 人間がたのんだから

Q2 北風が息をふきかけると、人間たちはどうなった？

① まっ白になって息をしはじめた　② ねむってしまった　③ 空をとびはじめた

Q3 プロメテウスを自由にしたのは、だれ？

① ゼウス　② エピメテウス　③ ヘラクレス

こたえ

Q1 ② エピメテウスが動物たちに羽や毛皮やからをあげてしまい、人間のばんにはもう何ものこっていなかったのです。

Q2 ① 北風が息をふきかけると、人間たちは雪のようにまっ白になり、息をしはじめました。

Q3 ③ ギリシャのえいゆうヘラクレスが、金の矢で鳥をうちおとし、くさりをといてくれました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典 英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #30800（Flora J. Cooke、1895年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1895 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Linette Geisel（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。